

北九州は本当に暮らしやすい街か

下迫田衛

1.調査の動機・目的

北九州市は近年、「住みやすい街」であることをPRすることに力を入れている。北九州市が運営する移住・定住応援公式情報サイト「北九州ライフ」では様々な魅力を紹介して移住者を募集しており、このサイトには「大人が住みたい街~第一位~」との記述もある。しかしながらどのような調査で第一位になっているのかを示すような記載は見当たらず、十分な説得力があるとは言い難い。市としては「暮らしやすいから暮らしたくなる」と主張し、交通アクセスの良さ、家賃や物価の安さ、医療介護の充実を根拠として挙げている。今回はこれらの市のアピールポイントに関してメッシュデータを活用し、北九州市は本当に暮らしやすい街であるかどうかを考察してみる。ただし考察する対象としては土地勘のある小倉南北区を主に見ていく。前提として小倉北区はオフィスや商業施設の多い都市の中心部、小倉南区は住宅の多い郊外というように大きく捉えている。

2.北九州市の交通

北九州市を語るうえで、交通の利便性は主要な魅力として挙げられる。まず市外との接続性に関してだが、本州から九州へ入るときの玄関口であり、新幹線や飛行機、フェリーといった多様な交通機関で他の多くの大都市と接続されている。また九州一の大都市である福岡市との接続性もよく、新幹線や高速バスを用いて福岡市内に通勤通学している人も多い。ただしこれらの状況に関してはメッシュデータでの分析が難しく、また「暮らしやすさ」との直接的な関連性は薄い。

今回はメッシュデータを用いた分析として、主に市内の交通の利便性について考える。北九州市の主要な交通機関としてはJR九州、西鉄バス、北九州モノレールがある。以下に「公共交通利用圏と人口分布の関係」を示す(図1)。メッシュデータの色分けは、赤が駅・バス利用圏、オレンジが駅利用圏、黄色がバス利用圏となっている。駅にはJRとモノレールが含まれ、バスには西鉄バスと市営バスが含まれるがバスに関しては主要な西鉄バスを考える。メッシュの高さが表す夜間人口について見てみると、市の中心部にあたる小倉北区だけでなく小倉南区にも多くの人が広く居住していることがわかる。小倉北区から小倉南区へ縦につながる北九州モノレールの沿線には特に多くの人が居住している(図2)。

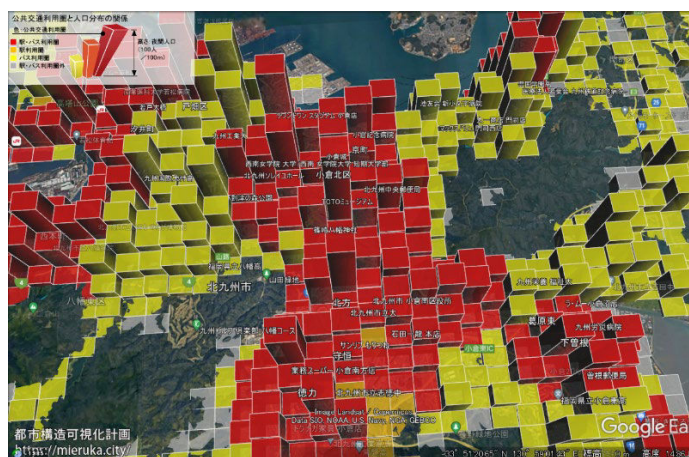


図1



図2

メッシュデータの色に注目すると居住地域の大半は少なくともバスの利用圏内にあることがわかり、駅のための利用という地域はほとんど存在しない。このように市内のほとんどのエリアはバスで接続されており、交通網の充実が視覚的にわかるデータを得られた。赤であらわされた駅・バス利用圏の住民は運賃や利便性から交通機関を選択することが可能である。バスは遅延のリスクがある一方で目的地の目の前までアクセスすることができる。対して JR やモノレールは駅までや駅からの徒歩を要する一方でダイヤが正確で所要時間が短い。私はかつて市内のバス・駅利用圏に居住していたのだが、基本的に西鉄バスを利用し、遅れたくない場合や急ぎの場合には駅を利用していた。北九州市によると平均の通勤時間は 24.8 分と短く、オフィスの多い小倉北区の中心部には商業施設や商店街、公園などが集中しており買い物や遊びのアクセス性もこれに準ずると考えられる。以上のことを踏まえると、北九州市は交通網が充実した暮らしやすい街であるといえる。

3.北九州市の地価

続いて北九州市がアピールしているポイントとして家賃の安さに注目する。参考にするメッシュデータは 2015 年における地価である(図 3：北九州市、図 4：福岡市)。赤系統が商業地、黄色系統が住宅地の地価を表している。



図 3

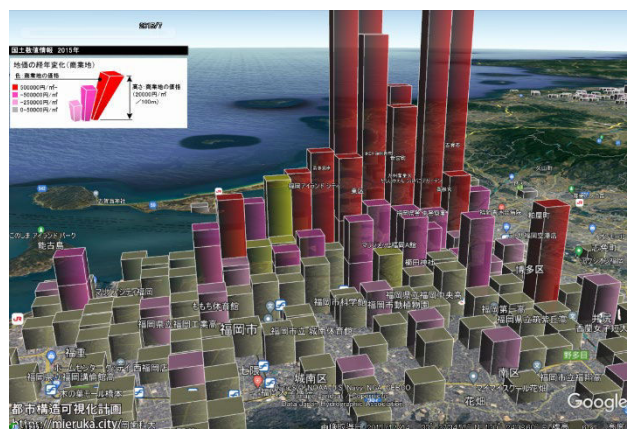


図 4

北九州市の商業地は主に小倉北区の中心部に位置し、北九州市で最も高いエリアの地価は福岡市南区大橋と同等であり、福岡市の中心にあたる天神博多エリアと比べると地価は相当安く商業地も狭いことがわかる。小倉南区に位置する薄ピンクの商業地は郊外のショッピングセンターとなっており、地価の安さから広大な床面積をもつ商業施設が並ぶエリアである。住宅地の地価を見ても軒並み福岡市内よりも安くなっていることがわかり、住宅地に関しては商業の中心地との距離との相関はそれほど強くないように見える。地価が安いことで家賃が安くなり、同じ家賃当たりの床面積が大きくなるため、市内の中心部に近くても豊かな暮らしがしやすくなっている。交通に関して取り上げた通勤時間のデータに関しては、このような背景もあって短くなっていると考えられる。交通の利便性と安い家賃、そして快適な居住性の 3 つの観点について、一般的な都市においてはどれかを諦めなければならなくなりがちであるのに対して北九州市では無理のない範囲でこれらを同時に実現しやすい環境が整っており、暮らしやすい街であるといえることができる。

4.北九州市の医療の分布

最後に北九州市の医療環境についてみていく。北九州市の主張には人口 10 万人に対する病院病床数が 2000 人強で熊本市と同等、札幌市や岡山市よりも多いことを表すグラフが添えられ、診療所病床数に関しては福岡市や岡山市よりも多いことを表すグラフが添えられている。ただしこれらは市全体の人口あたりのデータであり、実際に暮らすうえでの利便性としてはもう少し狭い視点で考えるべきである。そこで利用するメッシュデータが「1 病院・1 診療所あたりの夜間人口(2015 年)」である(図 5：北九州市、図 6：福岡市)。



図 5

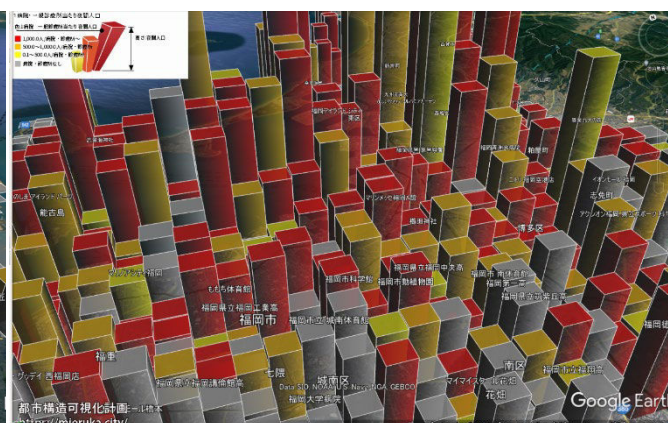


図 6

メッシュの高さが夜間人口を表し、色は黄色から赤に近づくほど 1 病院・診療所あたりの人口が多くなる。すなわち、高くて色が黄色に近いメッシュは「人口も医療機関も多い地域」であり、低くて赤いメッシュは「少ない人口に対して医療機関も少ない地域」ということになる。ただし、これは病床数ではなく病院・診療所数に対するものであることに注意する。また、グレーのメッシュは医療機関がないエリアであることを表す。全体的に見ると福岡市に比べて北九州市は赤いメッシュの割合が低く 1 医療機関に対する夜間人口が少ないといえる。医療機関の分布は JR やモノレールの沿線を中心になっており、メッシュ内に病院のない住宅地でもアクセスしやすい範囲内に医療機関が存在している。ただしその際、医療機関に対する患者の密度は上昇することは考慮しなければならない。加えて北九州市は地形的に山間部の集落も多く、そのような地域に関しては医療機関がほとんど存在せず、緊急時のリスクは高くなってしまっている。緊急時に重要なのは公共交通の充実性ではなく車両の到着速度であるため、北九州市のもつ充実した公共交通網が役立たない可能性がある。医療面に関しては市内においてポテンシャルの差異が大きくなっているため平均値で論じるのには限界がある。

5.総評・今後に向けて

ここまで交通、地価、医療に関するメッシュデータを利用し北九州市のアピールする魅力について検証してきた。市の主張に関しては概ね納得に値するデータを得ることができ、暮らしやすい街と言って差し支えないという結論に至った。近隣であるという理由で引き合いに出した福岡市と比べると、全体的にコンパクトな規模でまとまっている都市であり、人口や経済規模では敵わないながらも素朴な暮らしやすさでは優れている部分もあるのではないかと考えられる。特に交通網の充実度と地価の安さは暮らしやすさに直結しており、北九州市に住むことのメリットを視覚的に再確認することができた。

今回の調査にあたり北九州市の PR 戦略に注目してみたところ、コンパクトさや物価・地価の安さに関しては東京などの大都市と比較して小規模であることをアピールしている一方で、子育てや介護などにおける行政の実行力に関しては政令指定都市であることの強みをアピールしていることが気になった。北九州市の魅力の多くはそのコンパクトさにあると言えるため、東京や横浜、さらに言えば福岡などの大都市との単純な比較では論じることが難しい。宝島社の雑誌「田舎暮らしの本」による「住みたい田舎」ベストランキングで上位に入っていることを市の運営するホームページでアピールしているという点からみても、北九州市は「かつての 100 万都市」として他の大都市と競うよりも、一人一人が暮らしやすい街を目指すことにポテンシャルがある都市であると推測される。

参考文献

- ・北九州ライフ.「北九州市ってどんなところ？」.
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/kitakyushulife/whats/> (2021-11-05)
- ・北九州ライフ.「「住みたい田舎」ベストランキング！子育て・若者部門が上位にランク UP！」.
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/kitakyushulife/sumitaiinaka_2020/ (2021-11-05)
- ・北九州暮らし高評価 移住 1 位 シニア雇用、安い物価 育児 3 位 保育支援、医療も充実 「負の印象」一新 行政本腰. 西日本新聞 me. 2016-12-19.
<https://www.nishinippon.co.jp/item/o/303312/> (2021-11-05)